

第32回日本最小侵襲整形外科学会

アフタヌーンセミナー2 AS2

真のMIS THAとは何か？

—合併症を減らすセメントTHAという最小侵襲—

開催日 **2026年11月13日（金）**

時間 **13：05～14：05**

会場 **第2会場**

東京ミッドタウン・カンファレンス
（六本木）4F

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-1



座 長

山口 健治先生
（川崎市立川崎病院）

演 者

真 賢一先生
（関西医科大学総合医療センター）

本セミナーでは、下記の日本整形外科学会単位を取得できます。

■専門医単位【N-11：骨盤・股関節疾患】

第32回日本最小侵襲整形外科学会

アフタヌーンセミナー2 AS2

真のMIS THAとは何か？

ー合併症を減らすセメントTHAという最小侵襲ー

人工股関節全置換術（THA）における「最小侵襲」は、皮膚切開の小ささや筋温存のみで評価されがちである。しかし患者にとって真に侵襲が少ない手術とは、合併症を減らし、長期に安定し、将来の再置換まで見据えた再現性の高いTHAである。

セメントTHAはCharnleyのlow-friction arthroplastyに端を発し、セメント固定、UHMWPEカップ、小骨頭による低摩擦トルクを基盤として発展した。近年はセメントレスTHAが主流となったが、各国レジストリーでは高齢者や骨脆弱例におけるセメント固定の優位性が示され、セメントレス偏重は“uncemented paradox”とも評される。セメントTHAの利点は、骨形態や骨質に左右されにくく、脚長、オフセット、前捻を独立して調整でき、カップも含め理想的な設置を妥協なく追求できる点にある。また周囲骨折の低減や再置換時の抜去・再建の容易さも大きな利点である。一方で良好な成績には、骨セメントは「接着剤（glue）」ではなく「充填材（grout）」であるという特性を理解し、洗浄、プラグ設置、逆行性注入、加圧、適切なタイミングを徹底する等、セメントテクニックの習得が不可欠である。

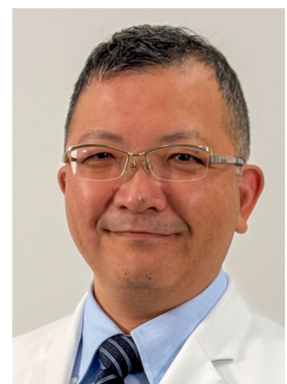
本講演では、セメントレス時代におけるセメントTHAの意義を、歴史、レジストリー、合併症予防、再置換の観点から再考し、真の最小侵襲THAのあり方を考察する。



演者

梶 賢一先生

(関西医科大学総合医療センター)



承認番号・販売名

23000BZX00172000 パラコスR ポーンセメント

承認番号・販売名

30100BZX00180000 パラコスR+G ポーンセメント

共催：第32回日本最小侵襲整形外科学会 アクアメッドジャパン株式会社